

前略 入江泰吉様

はじめまして。榎田伸也と申します。私は、精神障害者です。「統合失調症」という病気を抱えています。

統合失調症は、今でこそ、テレビで正しい情報が伝えられるようになったものの、私が発症した 10 数年前はまだ、この病気についての具体的な情報を得ることが大変困難でした。幻聴や妄想などの症状が出現しても、私自身はおろか、家族もどう対応していいか解からず、右往左往していました。

症状にも浮き沈みの波があり、比較的気持ちが安定している時期もありました。そんな時出会ったのが、あなたのさまざまな作品でした。

最初の出会いは、奈良市写真美術館でした。

1 枚 1 枚写真を鑑賞するたび、思わずため息が出ました。

さまざまな風景、寺院の建造物、小さなお花にいたるまで、丹念に写されているのですが、見ていて、いつまでも飽きがこないのです。

本当に素直に、素晴らしい！と感動しました。

精神的に不安定だった私のところに、1 枚 1 枚の作品が、すうーっと入っていくような感じがしました。

もともと、広島県で生まれ育った私にとって、「奈良、大和の風土は、まるで宝庫でいっぱいだなあ」と、ただただ、感じ入っていました。

東大寺、法隆寺、薬師寺、唐招提寺、当麻寺、明日香…挙げればきりがありません。

私は、小さな頃から大して写真に関心が高いほうではありませんでした。しかし、統合失調症になり、気持ちが不安定になることが増えると、自ら、趣味を見つけるようにして、少しでも気持ちが落ち着くよう工夫していました。

なかでも、写真、特に風景写真は、私が「ほっと」する時間でもありました。私は、寺院の鑑賞が好きなので、自転車でしょっちゅう、法隆寺方面に出かけ

ました。

流れる思いに任せて、お寺の建造物をたくさん撮影しました。何百年も前から、ずっと存在している古いお寺にたたずんでいると、不思議と気持ちがほぐれるのを感じました。

そういえば、あなたも、写真家を目指して大阪で写真店を営みながら努力していたものの、戦災ですべてが消失し、ゆかりのあった奈良に移り住んだのですね。そして戦後からご本人が他界されるまで、奈良の地にしっかりと根を下ろして、数え切れないほどの写真を撮り続けたのですよね。

もちろん「しろうと」の私は、あなたの足許にも及びません。でも、一眼レフのファインダーを覗いていると、あなたの、奈良への厚い厚い思い入れが見える感じがするのです。本当に奈良、大和の地を愛しておられたんですね。

私が症状の不安定さのなかで、写真撮影を通して気分を和ませていたころから、10数年が経ちました。この間、私は2年にわたる入院生活を経験し、少しずつ症状も安定して、地域活動支援センターに通えるほどに回復しました。

今も時々、法隆寺などに出かけて写真を撮ります。時代が変わり、カメラはアナログの一眼レフからデジタルカメラに変わりました。最近法隆寺の境内から西の夕空に向けて撮った作品を同封いたします。どうぞご覧ください。

あの遠い空の彼方から、きっとあなたも今の私たち、今の奈良の風景を見つめておられるんでしょうね。

あなたのおかげで、こころがふんわりほぐれ、症状の回復への良き「くすり」になりました。本当に感謝いたします。

それでは、これからも、いつでも、いつまでも私たちを見守ってくださいね。

草々

榎田伸也